

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成22年度第8回定例会
開催日時	平成22年11月24日（水曜日） 18時30分から20時35分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	<p>会長：大島眞之 副会長：千葉桂子 委員：西嶋剛昭、定盛秀俊、渡辺文子、古賀節子、須磨田純子、森忠、福島憲子、加藤真理、萩原建次郎、上田幸夫 職員：相原館長、川口館長補佐、寺嶋分館長、小笠原分館長、玉木分館長、平井分館長、近藤分館長</p>
欠席者	幸内悦夫、柴山隼
議題	<p>(1) 第7回定例会の記録について (2) 報告事項 1 行政報告 2 事業計画書・報告書について 3 公民館だより編集室報告 4 都公連大会企画委員会報告 5 都公連委員部会運営委員会報告 6 利用者懇談会報告 (3) 協議事項 1 諮問事項「西東京市公民館の事業評価のあり方について」 (4) 事務連絡および情報交換 (5) 次回の日程について</p>
会議資料の名称	<p>(1) 事業計画書 1 地域で創る教育ネットワーク講座（芝久保） 2 セカンドライフ講座1科学編2美術編（ひばり） 3 写真を撮る、見る、読む講座（ひばり） 4 創作講座「カラフル粘土でひまなつりを彩る」（ひばり） 5 女性のためのエッセイ講座「人生のひとこまを書き残しませんか」（駅前） 6 シニア講座「西東京の歴史を歩く」（柳沢） (2) 事業報告書 1 めざせM-1お笑い講座（柳沢） 2 江戸文字ストラップ講座（ひばり） 3 健康講座「経絡リンパマッサージ」爽秋編（ひばり） 4 ワークショップで体験！エコして省エネ、地球温暖化防止（芝久保）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	無し
会議内容	
<p>○会長： 定刻につき、開会する。</p> <p>(1) 第7回定例会の記録について</p> <p>○副会長： 記録の修正についての申し出等を確認する。</p> <p>○職員： 特になし。</p>	

○副会長：
配付した記録のとおりとする。

(2) 報告事項
1 行政報告

○副会長：
報告を受ける。

○館長：
市議選の関係で既に12月議会が始まっている。公民館に対する一般質問は2件。
1件は公民館行政について、芝久保公の教育講座、公民館海援隊について広く市民に周知するよう求められた。新しい公共という視点にたったの質問であった。
2件目は公民館・図書館の喫煙場所について、受動喫煙を問題視するものだ。具体的には、柳沢公民館の喫煙場所の位置を問題視されたものだ。適切な場所への検討を求められた。

○副会長：
質疑を受ける。
特になければ、終結する。

2 事業計画書・報告書について

○副会長：
質問・意見を受ける。
先週の委員研修では、1事業の目的は1つに絞るべき、という示唆を受けているが、本日はその視点での指摘は避けるようお願いする。

○委員：
ひばり公のセカンドライフ講座の対象者だが、内容だけを見ると小学生向けの講座なのかと勘違いするが、広報するときには注意してほしい。
芝久保の環境ワークショップ講座の受講生が少なかったのは大切な内容だけに残念に思う。PRがつかみづらかったのかと思う。PRの言葉も一般的で、内容も総論過ぎる傾向があり、参加したいという気持ちに結びつかなかったのかと思う。例えば、家計に結びつける、といった気にかかる言葉を考えてはどうだったのか。

○職員：
団塊世代の参加者に科学と美術に親んでもらおうという趣旨だけではない。これを機会に子ども達のリーダーになってもらおうという裏の意図がある。ただし、広報の工夫は指摘のとおりだと思う。魅力を感じる言葉を駆使したい。

○職員：
40人の定員というハードルを上げ過ぎたために、相対的に少なく感じてしまったと思うが、15人集める努力はした。内容が総花的であった点は認めたが、環境はさまざまな切り口で取り組んでいきたい。

○委員：
駅前公の女性のためのエッセイ講座であるが、事業目的に書かれている「夜間実施」は講座の目的にはならないのではないかと感じる。また、この学習内容の中に、NHKでのインタビューを予定しているようだが、どうも理解できない。なぜNHKなのか。

○職員：

冒頭で副会長の言葉もあったが、事業目的が複数あり、先日の研修内容に照らせばどれが本当の事業目的なのか見失う内容になっていることは認めたいが、夜間実施については駅前公の命題であり、本事業計画書の項目設定の不備である。

なぜNHKでなければならないのか、という問いについては、講師と担当者が丁寧に打合せをし、講師の紹介でNHKのプロデューサーとの橋渡しができたからだ。職員がいきなりNHKに電話連絡等しても、かなうものではないと理解している。むしろ評価している。

○委員：

全7回の内、5回目だけが館外講座という点に違和感がある。エッセイを書く上での文章能力の向上が目的と思うが、なぜインタビューなのか。聞くことと書くことの差があると思うが。

○職員：

講座の構成上の問題である。担当者は、単に文章作成のハウツウ講座にならないように、人の意見を文字にするということも入れている。また、毎回座学であるので、気分転換とともに、人と人との交流には、外出することも理解できる範囲だ。

○委員：

住吉公の時代に、同じような内容の講座に参加したことがある。担当者も同じであったが、そのときは出かけはしなかったと思うが、やはりインタビューの内容を文字にしていくという過程があったことを思い出した。同じ趣旨であると思う。

○委員：

芝久保公の教育ネットワーク講座だが、数年前の芝久保公のロビーでの中学生の問題に対して、育成会として何ができるのかで悩んだことがある。その時も、複数の団体に話し合うことの大切さを学んだ記憶がある。講座の行く末に期待したい。

○委員：

私も大いに期待する一人だが、1月22日の年1回だけの開催ではもったいなく感じる。もっと回数をふやしてでも、意識を深く浸透させるべきではないか。継続的に実施することが必要だ。

○職員：

この講座は今年で3回目の実施だ。あと数年は、今のスタイルで行いたいと思っている。過去2年間は、情報交換と学習を積み重ねてきた。今年は2年間の学習を総括して、次年度の活動につなげるための取り組みを企画している。

○委員：

継続実施ということであるが、誰もが3回継続して参加している訳ではないと思う。

○職員：

今のところは、継続的に参加している人の割合が多い。

○委員：

年に1回の活動だと、前回の取り組みを忘れてしまう人も出るのではないかと。同じメンバーで続けることも大切なことと感じた。

○職員：

きっかけは公民館の事業としてスタートする内容であったが、このことは講座の中にとどまらず、地域が主体性をもって取り組んでほしい内容だと思っている。

○委員：

議論のやり取りを聞いていて、これは講座だと思うから質問が出たのであって、実際には「集い」といってよい営みだ。何々講座と銘打つと、どうしても複数回の取り組みがないと落ち着きが悪く感じてしまうが、地域ネットワークの集いであり、1年に1回、市民が集うことに意義を見出しているという内容だと理解した。

○委員：

講座ということだと、その年の内に完結しないといけないのではないかと感じてしまう向きもあるかと思う。

○委員：

講座であれ、集いであれ、年に1度だけでは顔合わせに終わってしまうのではないか。少なくとも、時期を違えて年に3回程度行ってはどうかと思う。自分も地域の中で同じような取り組みをしたが、準備会を含めて3回ほど行っている。ぜひ地域の団体が協力して行ってほしい。

○委員：

公民館海援隊のメンバー間のやり取りはどうなっているのか。

○職員：

メーリングリストに登録しており、互いの活動は共有できる環境にはある。

○委員：

文部科学省を經由して広く全国にPRされる可能性が高い事業と思っている。それだけに西東京市としても力を入れて取り組んでほしい。

○委員：

地域の青少年育成会、安全協会、PTA、民生委員、保護司、学校などさまざまな組織や委員が集っている。このつながりが、芝久保公民館まつりの実行委員としてのつながりを強化できた実績も生まれている。例えば、講座に参加した若い母親がまつりに参加したり、子供たちのステージダンスのグループが、新規に加入してきて若返りも進行している。

この講座は年に1回であるが、芝久保公民館地域の付き合いなのである程度の人間関係はできている。今の状況を考えながら、地域づくりをしていきたい。新旧の住民が、芝久保公に出入しながら関係作りを行っている。

柳沢公のお笑い講座M-1グランプリだが、若い人の関与する講座が少ない中、講座を通じて若者の気持ちを発散できる場を継続的に行ってほしい。

○副会長：

たまたまであるが、講座終了後に、ロビーで楽しそうにしている姿を目にした。ロビーコンサートにも出演してほしいと思った。

○委員：

若者の元気な姿を目にすると、こちらも楽しくなる。評価したい。

○副会長：

他になければ、終結する。

3 公民館だより編集室報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

10月4日に開催した。

11月号についてだが、1面は芝久保公民館まつり特集。2、3面の講座タイトルの文字スタイルの統一化についてだが、賛否両論あったが、必要に応じて字体に変化が必要だという意見の方が多かった。12月号は、漫画家カラスヤサトシ氏についての読み物になっている。楽しみにしてほしい。1月号は、萩原委員の協力により、高校生の初夢対談を企画した。明るい夢のある記事に仕上げたいと思っている。2月号は、西東京市の食文化について。B-1グランプリを意識して記事を書いてもいいのではないかと意気込んでいる。

今後の1面についてだが、地域課題を提供できる内容にすることと、公民館の役割が伝わる内容の記事もほしいと思っている。サークル訪問だが、公民館利用サークル以外にも開放することも必要なのではないかという意見も出ている。今後の課題だろうと思っている。

○委員：

サークル訪問についてだが、かなりの時間をかけて議論した。実績を上げているのだし、今までどおりの公民館利用サークルのみにすべきという意見と、いきなり変更というのではなく、内容の刷新はすべきだ、という2つが出たと思う。

今回、こうした機会に活発に意見交換が行われたことを評価したい。

○委員：

私は、公民館利用団体以外の情報を掲載することには問題が多いと思う。公民館だよりがなぜあるのか、ということが問いの答えだと思っている。公民館だよりは何を目的、理由に編集しているのかを、編集会議だけでなく、この場でも議論すべきなのではないかと感じてしまう報告だ。

○委員：

公民館だより、なのだから、公民館と連携する団体にこだわるべきだ。手を広げ過ぎて、地域情報紙、お知らせ紙面にならないようすることも大切だ。

○委員：

地域の中で活躍する団体と公民館の関係を取り持つという意味も大切に捉えてほしい。

○委員：

普段は公民館では活動していないが、例えば、公民館まつりの実行委員にはなっていて、毎年のもつりへの参加をしている。などということであれば、許容の範囲と考えたいが、全く公民館を利用していないというのではまずいと思う。

○委員：

記事のタイトルも「サークル訪問」であり、読む人も公民館の利用サークルだと考えると思う。公民館だよりは、かなり多くの市民から読まれている。あの記事を読んで、サークルの仲間になりたい、と思う人もそれに応じているものと考えたい。

○職員：

かなり以前にも、公民館登録団体以外の情報も提供すべきではないかという議論をしている。それは、サークル情報と捕らえるのであれば、登録団体以外を掲載することも意義があるのではないかと

いう理由からだ。ただし、結果的には登録団体に限ることにした訳で、もしも必要であるのなら、他の部分で取り上げることも可能だと思っている。サークル訪問は、現状では登録団体の掲載という結論だ。

○委員：

公民館を建物として捉える視点と、情報を知らせる手段としての公民館という側面もあると考えたい。だから、今回のような意見が出たと解釈している。あのタイトルのまま、公民館登録団体以外の情報を掲載するのは良くないことと思うが、他の欄で、地域の中で活躍する元気な団体を紹介することはあり得ると考えたい。

○副会長：

地域の中には、さまざまな立場の団体が活動しており、その数は大変多くなるものと思う。

○委員：

私は、提案者の意思に賛同して、門戸を広げることがを主張した。公民館は、もっと外に対して広げることがを提案したい。従来のパターンに縛られないことも必要なのではないかと思う。

今は公民館を使っていないが、公民館を使ってもらった方が良い団体も数多くあると思う。そういう団体に紙面を開放すべきだ。

○副会長：

今日は時間的な制約があるのでこの程度とし、しかし大切な意見も多く含まれていたなので、次回も引き続き意見を確認したい。

他になければ、終結する。

4 都公連大会企画委員会報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

いよいよ来月12日が大会本番になるが、分科会ごとに会場が異なるので注意してほしい。参加者の積極的なかわりで実り多い大会にしてほしい。

○委員：

分科会の決定は何時になるのか。

○職員：

一両日中には、小平市からの返答があると聞いている。回答が届き次第、連絡したい。

○副会長：

他になければ、終結する。

5 都公連委員部会運営委員会報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

11月7日の委員研修会の反省会を行った。アンケートの結果だが、年齢的には60代の人が最も多く、今回始めて研修に参加した人は7人、残りは2回以上複数回の参加であった。圧倒的に、今回参加

してよかったという回答であり、胸をなでおろしている。

反面、グループ討議の時間が短いのではないかという意見も多く寄せられている。これで、今後は何をしていけばよいのかも見えてきた。安藤講師の話から、公民館や社会教育の学びを広げる必要性や意義についてつかめたという、前向きな回答が多かった。

西東京市の委員が参加したグループからの情報であると思うが、事業評価という言葉をはじめて聞いた、参考になるのでぜひ具体的な事例について学びたいというものも見られた。

次回は、3市の公民館長の事例報告と講評、1時間のグループ討議と全体のまとめ、という構成で進行したい。予定しておいてほしい。

○副会長：

参加者の感想を述べてほしい。

○委員：

私のグループは5市の委員が集って大変多くの意見が交わされたが、ほぼ全員の意見は一致したところがある。

小平市では11もの館があり、数が多いために全体的に取りまとめるのが難しいという発表が印象的であった。公運審委員も、日常活動を見学するために公民館巡回をしたいと思っても、数も多いし、市の面積も広く、実現できない。ただし、問題意識は持っているということであった。

○委員：

講演からは、公運審に問われていることを明確に学ぶことができた。また、公民館が法律で規定しているながら、結構抜け道だらけであるということも改めて認識した。

いくら素晴らしい活動をしていたとしても、それを市長や議会に向けてPRする必要があるという結論だったのではないか。その意味では社会教育の場を提供するという意識が薄いと思う。私たちは、諮問・答申の流れを市民にも情報提供すべきであるという示唆も受けた。また、公運審には、職員を教育する役割を担っているということであった。

○委員：

情報交換でわかったことであるが、西東京市のように会議の回数が年間12回という公運審はものすごく少ないようだ。逆に任期については、他市は2期より長い市が多い。毎月開催は良い点と思うが、任期についてはもう少し長くてもいいと感じた。

○委員：

講師からも私たちは決定機関ではないということを改めて説明を受けた。地域での社会教育活動の変化や公民館のPRについては、教育長に伝えることも必要で、私たちの評価をうまく伝えることが近道であることを学んだ。

グループ討議の時間だが、たった4人の構成員であるにもかかわらず、全員の話をも丹念に聞く時間はなかった。他市の委員から、私がどういう経緯で委員に選ばれたのかという質問を受けた。

○委員：

講師の口調が早口で、メモに苦労した。既に他の方の報告にもあるように、首長に向けて理解を促すことが大切という示唆が耳に残っている。私たちが実践しなければならないことだ。

日野市、東大和市、国分寺市の委員と情報交換した。国分寺市の委員から障害者学級の現状について報告を受けたので、西東京市でも行っていることをPRした。

○副会長：

公民館のことを市長や教育長という人々に認識を持ってもらうことの大切さが伝わってきた。特になければ、終結する。暫時休憩する。

(19時35分休憩)

(19時40分再開)

6 利用者懇談会報告

○会長：

再開する。報告を求める。

○職員（柳沢公）：

例年どおり2回実施した。

10月21日木曜の19時からで、15団体17名と公運審2名の出席があった。館長のあいさつの後、参加者の自己紹介と活動報告を受けた。多くの団体から「部屋が非常に取りにくい」という声が上がった。また「使用時間内で早く終わってしまった団体がある場合、空いた部屋を使わせてほしい」という声があったが、特例使用について説明した。ただし、この形式が定着するには、利用団体同士の交流を深め、協力を促すことが必要だ。

次に公民館からの連絡事項として、部屋の貸し出し状況、7月に設置したサイクルゲートについての話をした。サイクルゲートとフェンスについては多くの意見が寄せられたが、利用者の理解と協力を求めると同時に、今後どのようにしていくべきか、調整・検討していく必要があることを伝えた。参加者からは、批判的な意見と設置を歓迎する意見の両方が出たことを付け加えたい。

続いて、上期の主催事業を52インチTVで視聴しながら、説明をした。その後、来年度事業の提案や助言を求めたが、今後開催してほしい講座としては、憲法講座・パソコン講座・若い女性対象の労働講座等具体的な講座の案が上がった。来年度の事業計画を立案する上で参考としたい。

夜の部の反省だが、利用者同士の交流を深める会というよりは、公民館への意見・要望を聞く会になってしまった。次回は利用者同士の交流が深められる工夫ができればと思う。

昼の部は、22日金曜日の14時から、25団体27名と公運審1名の出席があった。

懇談会の流れは夜の部とほぼ同様であったが、前日と異なり発言する団体が限られることはなく、広くさまざまな団体の意見を聞くことができた。特に「公民館を全面禁煙にしてほしい」という要望に対しては「吸う人の権利もあるのでは」「そんなに神経質にならなくても良いのではないか」と反対の意見も多数寄せられた。「活動が終わったサークルの声がうるさいので、扉に使用中の札を出してほしい」との要望には「会独自の札をドアノブに掛けておけば、会の宣伝にもなるので良い」との提案もあり、団体同士の意見交換の場ともなっていた。夜の会と比べ、意見を出しやすい雰囲気があったようだ。

来年度の講座に関しては「外国人の母親のための日本語講座を継続してほしい」との要望、「なぜ公民館が必要なのかを学べる講座」を開催してほしいとの要望、「公民館はさまざまな人に向けて、多様な講座が用意されている。それこそが公民館の存在意義を示していると思う」との意見も上がった。今後とも公民館の情報を伝え、利用者の要望を汲み上げるとともに、利用者同士の交流、懇談会が利用者の意識を高める学習の場となるよう努めたい。

○職員（田無公）：

10月18日月曜日の19時から行った。出席者は、13団体、15人、公運審1人で、前年よりわずかに増えた。

最初に利用者懇談会を持つ意義について、年2回10月と3月に公民館から利用者の皆さんへの報告の場として、利用者との意見交換の場あるいは交流の場として、地域の課題その解決の話合いの場として、社会教育活動の中でも大切な機会である旨説明した。また、公民館運営について、22年度公民館事業方針の「年間活動目標」として、「地域づくりは人づくり」を基本にして、地域課題の把握と問題解決のための中核施設として、今後もあり続けたい点を伝えた。

次に公民館からのお願いとして、1、公民館の使用時間は厳守、2、部屋の使用後の現状復帰、3、団体連絡箱の管理、4、夜間使用時の公民館使用確認票の記入漏れ、5、公共予約システム使用者登録

届出書の更新を随時受け付けしていること、6、公共予約システムが保守点検のため10月16日と17日にストップしたこと。続いて、既に始まっている公民館主催事業「子育て講座」「田無カレッジ講座」「国際理解のための講座1・2」についてと、今後予定される「田無公民館まつり」「人形劇フェスタ」の準備会が始動したこと、まつり参加団体を募集していること。また、12月の講座で小・中学生に人気の「食材レッスン冬の編」があることを報告した。

引き続き意見交換を行い、利用者からの要望だが、今後の公民館主催講座については、1、財政講座をぜひ開催してほしい、2、働き盛りの人をターゲットに絞ったものを開催してほしい、というもの。また、利用者連絡会のような組織を自主的に作れないか、という提案もあった。

印象として、これまでは公民館への苦情・要望に留まる会であったものから、西東京市公民館の環境が他市に比べ恵まれているという意見があったこと、公民館の存在を利用団体のみならず、利用市民、公民館職員が広く知らしめる努力がこれからも必要である点が確認されたこと、は評価できると思う。

○職員（芝久保公）：

10月14日木曜日の18時から行い、出席者は17団体、23人で、昨年度同時期の会議より利用団体の増加があり、懇談会出席者もふえたことは、公民館にとっても利用者にとっても有意義であった。

冒頭に利用者懇談会を持つ意味について説明し、公共予約システム導入後、申込み時に職員と利用者が顔をあわせる機会がなくなり、利用者懇談会がますます貴重な会になったことを確認した。続いて、公民館からのお願い・お知らせを伝え、あわせて各職員の自己紹介を兼ねた担当事業報告を行った。

その後、利用団体の自己紹介と情報交換および利用上の問題点の話し合いがあり、参加者全員から活動の様子や活動上の課題、要望について簡単に受けた。数サークルから部屋の確保が困難という意見が出た。これを受けて意見交換をしたところ、特に、創作室やピアノがある視聴覚室の予約が取りにくいとの意見が出された。公共予約システム導入後、利用者同士の調整が利かず、便利になった一方失ったものもあるのではとの議論であった。その点に関し公民館として、今年度まずは創作室利用のすべてのサークル懇談会を開催して、そこからお互いの顔が見える関係を作っていこうと提案した。既に、創作室を利用している陶芸サークルが10団体あるため、これに加えて木工やステンドグラスなどの創作を中心としたサークルを集め、23年1月頃には会議を予定したい。

地域情報として、最近近隣でボヤ事件が発生しているので付近のパトロールを警察に強化してもらっている」との報告があり、地域でも互いに注意し合うことを確認した。この情報に対しては、毎年冬に公民館・図書館、併設の都営住宅の住民、近隣住民および消防署が火災・震災・AEDの訓練、起震車体験などを実施していること、サークルの方々にも積極的に参加してほしいことを呼びかけた。公民館が地域住民の学習の場でもあり、交流の場であることが理解できたと思う。

参加数サークルから、現在は公民館職員とサークル間で良好な信頼関係が築かれおり、この関係を今後も継続していきたいとの意見が出され、私たち職員にとっては非常に喜ばしく、またありがたい反応であり、さらにより良い公民館運営に邁進したいと考えている。

○職員（谷戸公）：

10月16日土曜日の10時から行い、26団体27人の参加があった。

利用者懇談会は利用者相互の意見を交える貴重な機会である反面、利用者懇談会に参加できない、参加しても他の団体の前では発言しづらい、特にマナー等の苦情は言いにくいとの声は多く聞いている。

そこで、谷戸公民館の年間目標として「普段、職員から利用者や来館者に積極的なあいさつや声かけ」を実践しており、日常会話の中からの情報や貴重な意見を拾い集めてきた。その貴重な意見や苦情等を利用者や市民からの声として懇談会で公表し、公民館への要求だけの場とせず、同じ利用団体間で問題点を共有し、解決していくことを促す場として投げかけている。

参加者からは、利用団体間の調整や相談に積極的に関わったことに感謝されたことや、以前から実施してきた利用状況実績表の配布による効果が出てきており、部屋の確保が困難という苦情も減少し

てきている。

今後も、谷戸公民館の目標を継続実践し、情報や意見を日頃のやり取りの中から収集していくことを大切にして、利用者懇談会につなげていくとともに、それらを基に利用団体が活動しやすい環境作りをしていきたい。

○職員（ひばり公）：

10月23日土曜日の10時から開催し、20団体23人の参加を得た。初めての土曜開催の甲斐あって、参加者もは昨年度よりふえた。

参加者全員の自己紹介の後、公民館からの案内、お願いを申し上げた。今年度上半期の部屋の利用状況表を示し、部屋の利用は3人以上で使ってほしいこと、キャンセルは早めにしてほしい旨、伝達した。また、前回の利用懇の提案を受け、電柱に施設案内板を設置したことも報告した。

続いて、主催事業報告を行ったが、今回は少し工夫をして、受講者が報告する形をとった。昨年度のセカンドライフ講座から立ち上がったサークル「おもちゃ箱」の会員と今年度のロハス講座参加者からの話を聞いてもらった。

その後、館の運営についての意見交換の時間を持ち、備品の椅子のきしみの指摘があり、ねじの緩みが原因であったため、即時対応した。また、部屋が取り難いという意見は当館でも上がっているが、まずは特例使用を使うなどして、限られた施設をうまく活用していくしかないと考えている。これについては、曜日や部屋別のサークル懇談会を仕掛けることも考えている。

公民館はどうして無料で使えるのか、法的根拠などを教えてほしい、という声も上がった。社会教育法に基づく教育機関であること、西東京市では学習を権利として保障していることを話した。

来年度事業についての意見だが、自転車に乗る人にマナーや安全運転を教えてほしい、という意見があり、別の方からも、自分も危ない思いをした、という声が出たため、一つの地域課題が話題になったことは収穫であった。来年度事業に結び付けていきたい。

○職員（駅前公）：

10月20日水曜日の19時から18団体、20人の参加があった。利用団体の増加に伴い、懇談会出席者もふえたことは、喜ばしい。

最初に、利用者懇談会を持つ意味について若干の説明と、東京の公民館がこれまで大切にしてきた「地域の活動の拠点」「地域づくり・人づくりの学び」について理解を促すため、都公連作成のDVDを鑑賞した。

続いて、参加者全員から活動の様子や要望等について受けたが、大多数のサークルから部屋の確保が困難、という意見が出た。これを受けて意見交換をしたところ、キャンセルする団体に対するペナルティーを求める意見、そもそも少人数で利用するから利用直前にキャンセルが発生するのだから公民館はもっと大人数で利用するよう指導すべきだという意見、またはなぜ当日利用ができないのかという質問、さらには猛省を求められたのが「公民館が講座の予備日で確保したまま当日まで放置したため、部屋を使えなかった」という事例報告、などである。

結果的には、いきなりペナルティーを科すのではなく、まずは公民館側からキャンセルに関する注意事項を利用団体にPRすること、もっと多くの団体が懇談会に出席して、サークル間で部屋をシェアし合えるような環境の醸成をしていくことが大切であるということなどを確認した。このことは、登録サークル数がさらに増加すれば、ますます深刻な問題になることでもあり、利用者の冷静な判断が求められる事項と考える。

関連して、サークル間の情報交換のために先々の活動日や時間を公民館経由で情報提供する仕組みについての提案があった。この種の提案は、特例利用を推進しようとする過程では同様の疑問が成される事項であるが、団体の活動日時等の情報も個人情報として保護されるべき事項だ。情報を公にされても差し支えないという団体がある一方で、こうした動きには消極的な団体もある。ましてや部屋をシェアしてほしいという電話連絡を突然受ける、ということが頻繁に行われると、団体間のトラブルにつながる可能性もはらむ。さらに、こうしたことが日常化すれば、せっかく定着した団体情報一覧への連絡先の開示も閉じるサークルがふえることを危惧する。この点も、時間をかけて冷静に確認

すべき事項だ。

また、開館後の利用懇のたびに追求のあった自転車置き場の件も1件苦情があったのみで、他の「事務室が4階で不便」「トイレが狭い」などといった施設構造に関する意見や苦情は一応収まったようだ。

当館は、今のところ公民館をはじめて使う方々が多く利用する施設で、今回はそうした方も多く参加していた。懇談会の翌日に事務室に立ち寄って「公民館についてよく理解ができた」「なぜ無料で使えるのかが、少しだけ理解できた」という、うれしい言葉も聞いた。一方、住吉公の時代から長年にわたって活動実績のあるサークルも参加しており、こうした新旧の流れをどう紡いでいくのかも今後の課題となる。

○会長：
質疑を受ける。

○委員：
公運審への報告事項の中でも、最も興味深い内容であるが、口頭だけでなく、資料が添付されるようになったことに対し大変評価したい。

○委員：
駅前公民館の団体登録数は市内でもトップクラスと聞くが、出席数はそれに応じてふえているのか。

○職員：
登録数は多いのは事実だが、多くの団体が常時公民館を使っているとは思えない。今後も登録団体に比例して出席者がふえるかどうかは予想が立たない。

○委員：
谷戸公の職員の努力には敬意を表したい。
施設の老朽化に対しては、予算の関係もあり直ぐには対応できない現状を理解できた。また、利用者連絡会がある公民館では、そこの話し合いもふやすことを提案したい。懇談会で、もっと利用者が仲間として話し合うということが必要なのだと思う。

○委員：
柳沢の懇談会に出席した。ロビーコンサートの実行委員も多く出ていたが、利用懇から上がった意見だけでなく、他の集まりや実行委員会などで集めた意見も集約してほしいと感じた。

○委員：
開催時間だが、柳沢公の金曜日の開催会は、午後の時間帯なのになぜ多いのだろうか。

○職員：
柳沢では、昼間の利用者と夜でないと出にくい利用者のために2回開催している。活動時間帯に応じた時間が出席しやすいのだと思う。

○委員：
柳沢に出席した。26人の参加者がそれぞれ自己PRをしていて、良い雰囲気であった。自治会の人や高齢者も多く出ており、真剣さが伝わってきた。柳沢の部屋利用についての資料を見たが、まだ空いている部屋はあるのか。

○職員：

利用率100パーセントではないのでまだ空きはあるが、空きがあるのは日曜日の夜間であるとか、多くの団体が敬遠する日時であると理解してほしい。

○委員：

5館の懇談会に出席した。職員との信頼関係が根付きつつあることが実感できた。確かに出席者もふえてきているし、内容にも工夫の跡が見える。ただし、当然のこと出席者はサークルの会員ばかりであり、主催事業に対する意見を聞いても意見は出にくいと思う。それよりも、公民館の必要性について伝えることや、出席者が互いに話し合う時間をもっとふやしてほしい。

○委員：

芝久保に出席した。印象的だったのは、陶芸サークルの意見が強いことだ。自己のサークルのエゴとも感じる意見が出され、聞いていても困惑する。公民館まつりの時にも、展示については陶芸作品の占める割合が高いが、一考を講ずるべきと感じた。

○委員：

谷戸と芝久保に出席したが、和やかな雰囲気であった。谷戸公の報告にも開かれた事務室について話があったが、参加者からの賛辞の声が上がっていた。この点に加え、芝久保での専門員の担当事業についての報告があった点を評価したい。谷戸でも専門員を褒め称える言葉があり、職員と同等またはそれ以上の活躍に対し、市民が大きく評価していることが理解できた。

○委員：

多くの委員が懇談会に出席しており、委員もペーパーでの報告が必要なのではないかと。

○会長：

他になれば、終結する。

(3) 協議事項

1 諮問事項「西東京市公民館の事業評価のあり方について」

○会長：

先日の研修会には8人の委員が参加し、研鑽を積んだ。本日は、後ほど6人程度の起草委員の選任を行う予定だ。

○委員：

研修会に出席した。説明が具体的で、簡潔であったために、評価についてよく理解できた。研修会で学んだ内容にしたがって答申していきたい。

○委員：

早速人選について協議するのか。

○会長：

もう少し、各委員からの意見を聞いてと思っている。

○委員：

既に前回の議論で深まっていると思う。内容も大切だが、今後どういうスケジュールで進行させるのか、2月の中間答申までの流れを確認してはどうか。

○委員：

人選してしまっただろうか。

○会長：

人選はもう少し意見を聞いてからと思っている。

○委員：

任期の残り時間が少ないのだし、ある程度議論は尽くしたと思うので、全員がそろっている中で行ってはどうか。

○委員：

起草委員会の回数や開催時間について聞きたい。

○職員：

前回の起草委員会の例だが、月に2回程度で、時間は19時から2時間といったところだ。

○委員：

自薦、他薦を含めて意見を取り交わしてはどうか。

○会長：

では、起草委員の選出に関する希望が多いので自由に意見を述べてほしい。
(起草委員の選出についてフリートーク)

○会長：

確認したい。起草委員については、大島、定盛、古賀、須磨田、森、萩原委員を推挙する意見があるが、異議ないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○会長：

大島、定盛、古賀、須磨田、森、萩原6氏を起草委員に任命する。第1回の開催日は、閉会後に決めてほしい。

他に質疑がなければ終結する。

(4) 事務連絡および情報交換

○会長：

事務連絡、情報交換を議題とする。

(特になし)

(5) 次回の日程について

12月22日(水曜日) 18時30分

於: 田無公民館 第2学習室

○会長：

他に意見がなければ、閉会とする。